

リーダーシップとフォロワーシップ

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



放射線部門・担当モダリティ・クラブチーム・自治会・家族・さまざまな場面で「リーダーシップ」の重要性がうたわれており、多くの啓発本やセミナーでも論じられています。そして、そのリーダーのこれまでの経験から自分の置かれたポジションでのリーダーシップ論を作り上げます。

しかしながら、実は「リーダーシップ」と同様「フォロワーシップ」も同じくらい大切なのです。

例えば大企業の社長やグループ企業の社長も組織の最上位ではなく、さらに上司に会長や会社オーナー、いわゆる株主が存在することがよくあります。社長といえども、いわゆる中間管理職となります。歴史上では、各地のお殿様と言われた大名藩主も中間管理職なのです。さらには、以前、私の知り合いのグループ病院の病院長が、「病院長といえども中間管理職なんだよ」と言っていたことを記憶しています。私たち診療放射線技師にとって、上位とされるリーダー格は技師長や部長・事務長、そしてまれに副病院長というポストになります。

ときに、上司と対立することは、いかにも武勇伝風ぼく聞こえ、リーダーシップを発揮しているかのように見えるのですが、それでは自分の組織を良くすることはできませんし、組織として成果を上げることが難しくなります。リーダーシップを発揮し自分の組織を良くしようと

思えば、まずは上司に理解してもらうことが必要なのです。つまり、より良いリーダーシップを発揮するならば、より良いフォロワーシップを身に付けることが大切です。さらには、より良いリーダーシップを発揮し成果を上げることも上司に対してより良いフォロワーシップになるわけです。

しかし、リーダーシップの方が大切というポジションがあります。それは起業家です。起業家は組織をゼロから作り上げるわけですから、フォロワーシップよりもリーダーシップが大切になるわけです。そう考えると世の中の大半の人は、リーダーシップだけでなく、フォロワーシップも求められるのです。

では、フォロワーシップとはどのようなものなのでしょう。「チームの成果を最大とするために、自律的・主体的にリーダーを支援すること」とされています。リーダーも人間ですから、得手不得手があります。不得意分野をフォローすることで、チームを成功裏に導きます。結果、自分の組織も良くなり、それが自分のリーダーシップにもつながっていくわけです。

懸命にリーダーシップを取っているものの、組織がギクシャクするときはフォロワーシップを見直してみるのもいかがでしょうか。もしかしたら組織の人間関係がさらに良くなり、さらに良いリーダーシップを発揮できるかもしれません。